

# 読解力養い算数力向上

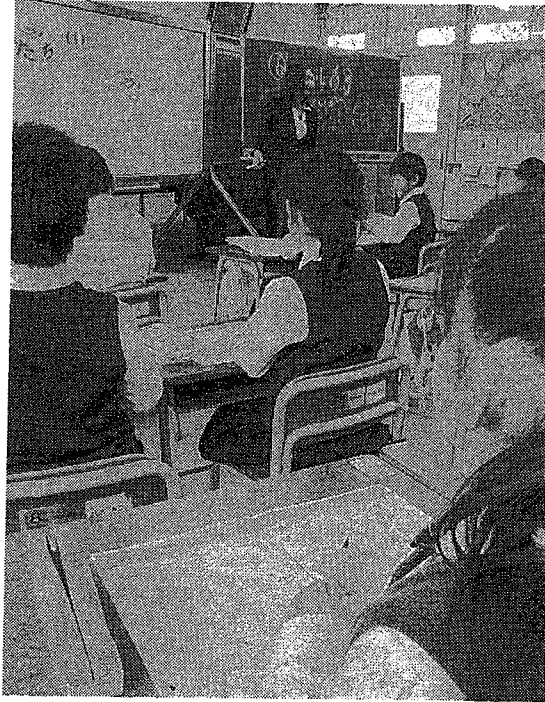
## 玉井式教材 奈良育英小が導入

奈良市法蓮町の奈良育英小学校(東誠司校長、144人)が来年度、児童の算数力を伸ばすカリキュラム「玉井式教材」を小学校では全国で初めて導入する。9日、導入に先立ち、同教材の考案者の玉井満代さん(52)が公開授業を行った。

玉井さんは1年生に、読解力を養うことで算数力を高める「国語的算数教室」の力りキュラムで授業。算数の課題を織り込んだアニメの物語を大型モニターに映し出し、児童に解決方法を考えさせたい。児童は多くの情報から必要な情報を選び出し、答えを導き出していた。

4年生の教室では、図形に特化した「図形の極」の力りキュラムを実践。児童は大型モニターに加え、一人一人がタブレットを使い、ICT(情報通信技術)を活用した立体アニメーションで、立体図形の展開図などを視覚的に学んだ。

玉井さんは京都市出身。和歌山県で約15年間私塾を運営する中で既存の教材への疑問を感じ、オリジナル教材を開発。同教材は全国の学習塾に導入されているほか、インドの公立学校など海外でも活用されている。



玉井式教材で学ぶ児童と玉井満代さん(右奥) = 9日、奈良市法蓮町の奈良育英小

同校は「児童は文章題と図形が弱い」との全国的傾向と「算数、理科は国際共通の教科。世界に通用する学力を」との視点から、玉井式教材に注目。来年度から「国語的算数教室」を1、2年生に、「図形の極」を4、5年生に導入する。

東校長は「児童の創造力を培いグローバル人材を育成する、と本校の目指す方向に合致した教材。成果に期待している」と話した。